

編集後記

編集後記

本学が平成二十八年度に「古事記学」の推進拠点形成―世界と次世代とに語り継ぐ『古事記』の先端的研究・教育・発信―を文部科学省私立大学研究ブランディング事業の一つとして選定されてから、本年度で三年目を迎える。

本号には、創刊以来の『古事記』の校訂本文・注釈の続編として「須賀の宮」から「八十神の迫害」の箇所を掲載した。本文校訂と注釈は、谷口雅博センター長を中心とする定例研究会での発表に基づく成果である。定例研究会では、毎回、本事業に参画する教員で意見を交換し、『古事記』を多角的に解釈していこうと試みている。本号掲載の十一本の補注解説もその成果の一部である。諸分野からの解説は、学際的研究をうたう本事業の特色の一つである。

定例研究会においては議論が深まることも多く、そういった重要な問題については、補注解説だけではなく論考としても本号に掲載した。本号に掲載する、藤本論文は注釈範囲でもある「須賀の宮」についての神道学的考察である。『古事記』記載の神社関連地名呼称と社名表記、また地名比定の観点からは、「須賀」と同様に考えられる地名もあることか

ら、今後、体系的に取り組む問題となるであろう。次の高橋論文も注釈範囲からの考察であり、稲羽の素菟の「素」の文字に着目し、字義・訓釈について諸文献の調査・分析を通して、『古事記』が描く「素菟」像を解釈する。なお、これら本文・注釈・研究に基づいた『古事記』の英訳は本号にも継続して掲載している。

本事業では研究活動の中核をなす定例研究会のほかに、一般聴衆も対象とした国際シンポジウム・研究会も開催している。本号には、昨年度に開催した国際シンポジウムと二つの研究会についても掲載した。

国際シンポジウム「時空を超える〈言葉〉―神話の翻訳をめぐる―」は平成三十年一月二十日に開催された。当日の基調講演は、『古事記』の現代語訳を刊行された作家の池澤夏樹氏にお願いし、その講演録を本号に収録した。その後、シンポジウムの詳細については平藤喜久子氏の報告を御覧いただくと思われるように、多角的に「翻訳」を捉えたシンポジウムが開催できた。

定例研究会以外の研究会として、二年十一月十九日に開催した國學院大學・

皇學館大学連携研究会である。当日は、本学と皇學館大学が締結する連携協定に基づき、皇學館大学の遠藤慶太氏と谷口センター長、笹生衛氏に発表をいただき、最後にデイスカッションを行った。本号に掲載された三氏の論考は、研究会当日の発表に基づき書き下ろされたものである。もう一つの研究会は、平成三十年三月五日に開催されたⅢグループ研究会である。Ⅲグループは、本事業において教育関連の研究を担っており、重要な柱の一つとなっている。その『古事記』の教育に資する研究会として、近年『古事記神話の幼年向け再話の研究』（おうふう）を刊行された原田留美氏から基調発表をいただいた。本号のために、原田氏には発表をおまとめたいただき、掲載を御許可いただいた。ここに玉稿をお寄せいただいた諸氏に感謝申し上げる。

この他、本号には敷田年治『古事記標注』の翻刻と研究を継続掲載している。こちらにも本事業の着実な業績として御覧いただきたい。

本年度は、私立大学研究ブランディング事業が世間を賑わせてしまった。初年度選定の本学は、今後も着実かつ誠実に事業を推進するのみである。

（渡邊）